資料紹介

中村一枝書誌

小川正人・西田秀子

目次
1　はじめに
2　中村一枝さんのこと
3　中村一枝書誌
（1）著作目録　（2）口頭発表・講演目録　（3）主要関係文献目録　（4）主要著書と雑誌『かぜ』の目次
4　参考資料（中村一枝氏追悼記事）
（参考文献）

Key Words　書誌（Bibliography）、アイヌ教育史研究（Research on history of the education for the Ainu）、女性史研究（Research on women's history）

1　はじめに

中村一枝　なかむら　かずえ
1931（昭和6）年、北海道釧路市に生まれる。
北海道学芸大学釧路分校第2類修了、日本大学文学部卒業。釧路市役所職員、釧路市立共栄中学校教諭、釧路短期大学附属高等学校非常勤講師をつとめる。
釧路アイヌ文化懇話会、札幌女性史研究会などに所属。
2019年12月7日死去。
（『永久保秀二郎のアイヌ語雑録をひもとく』巻末の著者紹介をもとに作成）

本稿は、アイヌ教育史、キリスト教史、女性史などに貴重な仕事を積み上げてきた、中村一枝氏[(1)]の業績を確かめ、共有をはかるためにまとめた、中村氏の著作や口頭発表などの目録である。

中村氏の業績として先ず挙げるべきは、30年以上ものあいだ釧路・春採のアイヌ学校教員をつとめた永久保秀二郎（ながくぼ　しゅうじろう）が記した日誌とさまざまな文書[(2)]を長年にわたって精読し、紹介と研究を続けてきたことである。公刊された単著2冊は、それぞれ、永久保の「日誌」と「アイヌ語雑録」にとりくみ、読解と整理を重ねたものだ。

『永久保秀二郎の研究』は、中村氏が1972年にはじめて永久保の日誌に出会ってから20年近くにわたってその読解を続け、日誌以外にも様々な文献を調べ、ゆかりの土地は自ら訪れるなどの調査を重ねた成果である。永久保の足跡と春採の学校の歴史をあとづけたことが先ず大事な成果であるが、その他にも、日誌に記された様々な出来事――安田炭鉱で働く人びとの子どもの春採への就学、同校における私立学校令施行の実態、土地や海産干場の問題、「共同牧場」計画など――を取り上げている。本書はあくまで日誌からこれらの出来事を紹介する姿勢に徹しているが、中村一枝氏が取り上げたこれら生活の細部の一つ一つが、アイヌ史・アイヌ教育史に関わる重要な論点が提示されている点で大きな意義を持つと筆者は受け止めている。

『永久保秀二郎の『アイヌ語雑録』をひもとく』は、中村氏はみずからアイヌ語については素人だと認めつつ、アイヌ語研究者・奥田統己氏のもとを何度も何度も訪れて、文字通りこの「雑録」をひもとく仕事を重ねた成果だと筆者は受け止めている。こうした認識のもと、本稿では、これら二冊については特に目次を掲載した。

筆者は、自身がアイヌ教育史の勉強に取り組み始めた大学卒業から間もない頃に、初めて中村氏の面識を得た。私が、公的な研究会の場で「コメンター」という役

小川正人：北海道博物館　アイヌ民族文化研究センター長
西田秀子：札幌女性史研究会　前代表
（1）中村一枝氏は故人であり当館研究紀要の執筆要領では敬称を略すところであるが、本稿では、中村氏の逝去からまだ間もない時期であることと、中村氏の足跡・業績への敬意を込めて、中村氏のみ敬称「氏」を付けることとした。
（2）中村氏が『永久保秀二郎の研究』20ページ以下で述べているとおり、この日誌が釧路市に寄贈されるに至る過程においても、中村氏はその仲介・橋渡しの役割を果たしている。中村氏は、永久保が暮らした地である釧路にこれらの資料が寄贈されることに尽力し、寄贈された後も、自身が長い時間をかけて「日誌」などを読み続けてきたのだ。

割を初めていただいたのは、北海道歴史研究者協議会における中村一枝氏の報告のときであり、それは中村一枝氏の指名だった。それから中村氏が亡くなられるまで、およそ35年。中村氏は、アイヌ教育史に関する論考を公刊したときはかならず筆者に恵与してくださった。筆者はそれらに目を通してはきたが、しかし「目を通す」までだったとも自省している。例えば『永久保秀二郎の研究』を改めてしっかり読んだのは、ずっと後年になって、必要があって永久保秀二郎日誌を読むようになったときだった。日誌の本文を読むほどに、それを読み込んだ中村氏の仕事を知ることになった。

ただでさえ基礎的な仕事に乏しいアイヌ教育史研究の中で、永久保の日誌を読み続け、聖公会の記録を探す中村氏の研究[(3)]を、自分はもっと学ぶべきだった。今となっては遅すぎる悔悟が、自分に向けたせめてもの作業として本稿をまとめる契機となった。

そして、札幌女性史研究会などで中村氏との長い交友を持つ西田秀子氏から、中村氏の著作や研究発表などに付いて多くの教示を得たほか、中村氏の研究の足跡とその意義についてのご寄稿をいただくことができ、本稿はその内容を大きく充実させることができた。何より筆者にとって、中村氏が目指した学問について、学びなおす大事な機会を与えていただけたと感謝している。

本稿にはなお遺漏がありえることを、先ず断っておかねばならない[(4)]が、それでも、ここに掲載した中村氏の著作や講座・講演のリストが、中村氏の業績の概要とそれらの意義とを伝える一助になればと思う。

最後に、中村一枝氏からの多くのご厚情に改めて感謝申し上げ、ご冥福をお祈りする。

凡例

・本稿は、「はじめに」及び西田秀子氏による「中村一枝さんのこと」、中村一枝書誌（中村氏の著作目録、学会・研究会等での口頭発表の目録、中村一枝氏に関係する主要な文献の紹介、中村氏の主著である『永久保秀二郎の研究』『永久保秀二郎の『アイヌ語雑録』をひもとく』の目次、中村氏が編集・発行の中心を担った雑誌『かぜ』の目次）からなる。

・このほか参考資料として、中村氏が亡くなられた直後に『北海道新聞』に掲載された追悼記事を、特に同社の許可をいただき掲載した。

・各目録等の冒頭に、それぞれの凡例を付記した。

(3)『永久保秀二郎の研究』巻頭の釧路市長・鰐淵俊之の名による「序」でも「〔中村氏は〕初期に於ける春採の学校教師としての実像を明確にするため、当時〔永久保と〕一緒に布教と教育に従事したルーシー・ペイン女史がイギリスの聖公会本部へ書き送った「報告書」を本国から入手し、翻訳分析した」と記している。「序」は「御苦労の連続であった事と存じます」と述べているが、確かに、1970～80年代において、中学校・高等学校の教諭をつとめながらこうした調査を続けたのは、まさに「苦労の連続」だったろうと思う。

(4) 例えば、中村氏は『永久保秀二郎の研究』の「あとがき」で、「北海道教育学会、北海道歴史研究者協議会、釧路史学研究会、札幌女性史研究会で研究報告の機会を与えられ」たと述べているが、西田氏や査読者からの多くの教示を得てはいるものの、本稿ははこれらの全てを収めたとは言えないだろう。

2　中村一枝さんのこと

中村一枝さんに初めてお会いしたのは、1987年5月、道歴研の入門講座（北海道歴史研究者協議会主催）で札幌女性史研究会の編著『北の女性史』を発表した時であった。

質疑の時間になるや、すぐに手を挙げ質問した女性がいた。内容は、「年表の1889年（明治22）に『仏教派の釧路婦人会が、英国宣教師の女学校設立に対抗して発足。会員300人』とあるが、その釧路英和女学校の開校と教師ミス・ペインが記載されていないのは、なぜでしょうか」。その方が中村さん（当時56歳）だった。

残念ながら本会は、同女学校の歴史に関して無知であった。後で知ることになるのだが、そのころ既に中村さんは、生涯の研究対象となる「永久保秀二郎日誌」の全体の解読と整理を終え、釧路叢書『永久保秀二郎の研究』刊行に向けて編目を組みたて、着々と執筆を進めていた。

その一方、永久保が校長を務める春採（ハルトリ）アイヌ学校で苦労を共にする英国聖公会の伝道師・ミス・ルーシーペインが1889年、釧路英和女学校の校長として釧路に赴任した。ジョン・バチェラー師の推薦を受け、女学校教育とアイヌ伝道の使命を担っていたという調査成果も得ていた。中村さんの質問は、「ペインについて資料があるなら何でも教えて欲しい」との研究上の要請であったという。先行研究もない手つかずの分野に挑戦する研究姿勢に学びたいと入会をお誘いしたところ、背筋をぴんと伸ばし、柔和な笑顔で返事をいただいた。住まいも数年前に夫の転勤の都合で釧路から札幌に移っていた。

1970年代後半に起きた、女性の視点で歴史を見直し記録する女性史ブーム期は、90年代の一時期、北海道でも旭川を初め９地域（旭川、北見、網走、函館、帯広、札幌、名寄、斜里、室蘭）に女性史研究会が生まれ、活発な活動を展開することになる。家庭や職場や地域社会での女性の地位向上と男女平等社会を実現するには、先ず、開拓使をはじめとする公文書や各種団体などの文献の探索、さらに散逸しつつある戦時資料や体験の聞取りなど、その時代の足跡を発掘・分析・記録し世に問い直し、確認することである。

中村さんは資料や証言を求めて現地へ足を運び、自分の目で確認することを大事にしていた。遠方の地で開催する女性史交流全国大会にも参加し続けた。沖縄大会では戦争と女性について、神奈川では女性の労働について。奈良で訪ねた「水平社運動の跡」は、被差別住民の団体・水平社が出自や職業により人間を差別してはならないと、反差別・人間の平等と尊厳を訴えた「人の世に熱あれ、人間（じんかん）に光あれ」の人権宣言で知られる。

なぜ中村さんは水平社の訪問を選んだのか。その答えは今回、小川正人氏が釧路文学館で見つけた61年前の中村さんの作品『かぜ』4号（1962年2月）の「ピコちゃん」にあった。「くず屋さん」の母がひくリヤカーの後ろについて行き、裏口から「何かありませんか」と新聞紙、ぼろ布、空き瓶などを貰い集める洋子は、学校でよくいじめられている。ある日、戦後開拓地の小学生に贈り物をすることになったが、貧しい家庭の洋子には贈るものがない。すると母が、ぼろの中から見つけた汚れた人形を洗い、戦死した父が満州から送ってくれた人形「ピコちゃん」が着ていた赤と黒の満州服の上着部分からおそろいの服を縫ってくれた。目が大きいので「クリちゃん」と名づけた人形に手紙をそえ、自分で作った自信と誇りを持って登校し、贈った。もう陰口も気にしない。開拓地からの返礼の手紙を読んで驚いた。女の子の家には同じ満州服の人形があり、それは満州から沖縄に転用されて戦死した叔父から送られたものだった……。

作品「ピコちゃん」の内容は現実であった。北海道出身の旭川第七師団の兵士たちは極寒の地「満州」や中国北部へ送られ、沖縄戦に転用されて戦死した数は1万人を超える。

このように満州、沖縄、戦死、引揚、戦後開拓、貧困、くず屋の職業……中村さんの小編児童文学作品からキーワードを拾うだけで、社会の渦の中をうごめく人々が、戦争という国家のなしうる最大の暴力によって、個人の未来と生死の明暗を決定づけられた歴史が浮き彫りされる。

「拙い未熟作品」と自己批評しながらも「書きたい強い意欲」（『かぜ』4号）。中村さんをつき動かす原動力は、自身の戦争体験の加害性への自責の念にある。

1931年、満州事変勃発の年に生まれ、国民学校4年生の1941年、12月8日に太平洋戦争が始まる。真面目で成績優秀な、いつも優等生の一枝さんは、開戦1年後の作文「十二月八日の感激」にこう書いた。

> 日本の少国民の一人として米英を討つまで戦ひ抜くぞと心に誓ひラジオに合わせて軍歌をうたった…。
> 前線の兵隊さんのご苦労をしのび、大東亜を築き上げるまで一生けん命働くようにしようと思ひます。

教育熱心な薬剤師の父から「小学生新聞」をとってもらい、学校に提出する「時局帳」に切り抜いた記事を貼りつけ、書き写す。

昭和18年7月13日　　お帰りなさい東條首相　　遠

く盟邦タイ國、マライ、スマトラ…フィリピンを訪れ指導者と勝ち抜く相談をした…。

南方出張の大切な目的である大東亜諸国との結びつきを強める事は余す所なく達せられた。

軍国少女は教育によってつくられることの恐ろしさと、批判なく染まっていた自己反省を起点にして、戦後を生きる指標にしている。その葛藤はたとえば、1954（昭和29）年8月、昭和天皇・皇后両陛下が第9回国民体育大会の開会式出席を機に北海道内を巡行した際、釧路でのお茶の接待役に北海道学芸大学釧路校学生の中村さんに白羽の矢が立ったが、「辞退します」と、自宅の押し入れにこもったまま、一日中出て来ないで苦悩したことにも現れている（結局は別の女性に決まったという）。

中村さんの記憶の中には9年前の1945年8月15日、「『聖断』が下り、戦争は終結。『耐えがたきを耐え、忍び難きを忍ぶ』ことが強く印象づけられた」（『女性史研究ほっかいどう』第2号2005）ことが思い起こされたのだろう。当時、庁立釧路高等女学校2年生の一枝さんは学友と陸軍白糠軍馬補充部の農場で援農生活をしていた。７月14・15日の釧路空襲では229名の死者、知り合いも犠牲となった。市街が投下爆弾で焼失する被害により、援農期間が延長され終戦を過ぎて帰宅できた。援農作業中に暑さに耐えかねて「雨雨降れ降れ母さんが・・」と歌ったことで、級友数名が引率教員に「ビンタ」された苦い思い出もある。中村さんにとって、8月15日を境に社会体制の価値観が180度転換されたとはいえ、戦時と戦後は地続きの時間軸にあり、そのうえで、起こる物事の連続・不連続の変容を冷静に観察している。

それゆえ、札幌市清田区北野小学校での戦争体験を語る授業や、2019年10月には自ら働きかけて、母校の釧路江南高校の生徒会役員と「占領期の民主主義教育を語らう会」を開催。戦後の民主主義教育を受け、同校生徒会長だった自己の活動の体験に基づく意見交換を楽しみに、体調不良を押して出かけた。

中村さんの研究テーマは大きく分けて二つある。一つは戦争体験と平和希求思想の継承活動、二つ目はアイヌ民族とアイヌ女性教育、釧路地方のアイヌ語研究と普及だと思う。

アイヌ語研究について、旺盛な知的好奇心は永久保の「アイヌ語雑録」以外にも、上原熊次郎の『蝦夷語集』の索引づくりに及んだ（「中村一枝書誌目録」を参照されたい）。きっかけは上原熊次郎が1791（寛政3）年に東蝦夷地クスリ場所の通詞をしていたことを知り、釧路地方アイヌ語の解明に興味を持ったという。

北海道大学図書館に通い『蝦夷語集』を閲覧し、約1,800の単語をカードに採録。難読漢字に対応、探索している時に同じ『蝦夷語集』の索引作成の作業をしている大学院生（高橋大希氏）と知り合い、『節用集』と照合すればよいとの貴重なアドバイスを受けた。ご教示により以降、暗雲が晴れるように解明作業も捗ったと聞き及んでいる。「『蝦夷語集』索引」が刊行された後、「索引編」の紹介がなされた。私が特に納得したのは、同書のxi頁にある「「月水」は「ぐりのすい」と分かるのは『節用集』による」との部分の解説である。つまり『蝦夷語集』の「支体」の編にあるアイヌ語「ぐり」とは「月」の事、「すい」は「水」で、「これは女性に毎月ある月経、生理を意味する」と、女性視点の意義を感じた。

研究と実践の並立活動では、本会が2011年に主催した公開講座「知里幸恵と金成マツ」には、執筆者の中村さんと、知里幸恵の姪に当たる横山むつみ「銀のしづく記念館」館長をゲスト講師に招き、参加者に好評を博した。二つの研究テーマを貫く軸は、弱者の人権尊重と平和希求の思いである。

中村さんの研究の意義は、『永久保秀二郎の研究』のほかにも、先の釧路のルーシー・ペインの未詳の史料を求めて英国バーミンガム大学図書館を訪問。収集した史料でアイヌ女学校の実態を明らかにしたこと。また同じ女性宣教師ミス・ブライアントの平取での1897（明治30）年から15年間に及ぶ滞在のうち、アイヌ・ガールズ・ホームの運営実態なども詳細に調査・翻訳して本会の会誌『女性史研究ほっかいどう』で紹介した（「中村一枝書誌目録」を参照されたい）。そこには「神の道を伝えるかたわら、裁縫、料理、編物、作法等親切に教えられました。当時先生の所へは遠く門別、節婦、新冠、鵡川、の地方から若い女の人たち来て習っていました。多分四十人ばかり集っていたように思います。」との教え子の言葉も綴られている。看護婦から転職したブライアントによる1898年の沙流川大洪水時の医療救護・支援活動や禁酒運動、冬季の女性たちの集会での会話といった日常生活など明治・大正期の地域史の一面が宣教師の本部への報告書によって明らかにされた。

大学や研究機関に所属しない在野の女性研究家が調査・研究を継続し、成果を著書で世に送りだすには、志と強い意志が根底にある。「自分の目で見、自分の心で考え、自分で発見したものを書き、それを自己の生きるよりどころにしたい」（『かぜ』2号、1961年7月）と書いている。

それから58年後の2019年12月6日の夕刻、中村さんは脳幹出血により倒れ、意識不明となり翌朝そのまま永

眠する。本会の例会を終え、私と次年の発表テーマ「軍国少女と戦後民主主義」を語らいながらの帰途だった。

最期まで課題に真摯に向きあう姿勢と衰えない情熱は、恵まれない研究環境にありながらも希望を捨てない多くの女性研究者たちの励みになるであろう。

（札幌女性史研究会　西田　秀子）

3　中村一枝書誌

（1）著作目録

［凡例］

・「発行年月日」：当該文献の記述にしたがった。発行年の記載がないものは内容等からおおよその時期を推察し、その旨を「備考」に記した。

・「表題」：単著は『　』で、論文等は「　」で括って示した。

・「ページ」：単著の場合は本文の総ページ数、論文等の場合は掲載ページを示す。

発行年月日（年）	（月）	（日）	表題	所収書（誌）名及び巻号	発行者	ページ	備考
1953	5	25	「書評の問題」	『読書人』第2巻第2号	市立釧路図書館	5	「堀一枝」名での執筆。
1954	6	30	「［書評］マルタン・デユガール作・山内義雄訳「チボー家の人々」全十一巻／白水社一九四九～五〇」	『読書人』第3巻第2号	市立釧路図書館	38～39	「堀一枝」名での執筆。
1955	1		「（座談会）私の読書計画」	『読書人』第3巻第10号	市立釧路図書館	（全8ページ）	1月9日に実施された菊地道子、中谷悦子、原田康子及び堀一枝による座談会の記録。司会は市立釧路図書館司書梁田瑠璃子。
1955	12	25	「読書計画は実行されたか？（回答）」	『読書人』第4巻第8号	市立釧路図書館	105～108	1月の座談会「私の読書計画」についての報告。
1956	6	15	「［書評］室生犀星訳「王朝日記随筆集」（河出書房）／日本国民文学全集第七巻」	『読書人』第5巻第3号	市立釧路図書館	10～11	「堀一枝」名での執筆。
1960	12	15	「［書評］佐藤暁著「誰れも知らない小さな国」／講談社　昭三五　二〇二頁」	『読書人』第9巻第7号	市立釧路図書館		「堀一枝」名での執筆。
1961	7	15	〔創作〕「雪どけ」	『かぜ』第2号			ページ数印字なし。本文は全9ページ。発行者名記載なし。編集代表は中村一枝。
1961			〔創作〕「ひがんばな」	『かぜ』第3号			発行年月日記載なし。ここでは後書きの日付によった。ページ数印字なし。本文は全7ページ。
1962			〔創作〕「ピコちゃん」	『かぜ』第4号		1～6	発行年月日記載なし。ここでは後書きの日付によった。
1962			「石森延男著「親子牛」を読んで」	『かぜ』第4号			ページ数印字なし。本文は全2ページ。
1962			「あとがき」	『かぜ』第4号			ページ数印字なし。本文は全2ページ。
			『永久保秀二郎の偉業について』			13	釧路市中央図書館所蔵。謄写印刷。発行年月日、発行者名記載なし。内容は『釧路春秋』掲載「［人物評伝］アイヌ教化　永久保秀二郎」にほぼ同じであることからその直前に置いた。
1973	7	15	「［人物評伝］アイヌ教化　永久保秀二郎」	『釧路春秋』第9号	釧路文学団体協議会	57～62	
1974	7	22	『明治20年代～大正期における春採コタンの実態　―主として永久保秀二郎日誌の分析を通して―』		私家版	37	B5判、謄写印刷。竹ヶ原幸朗・小沢有作（編）「アイヌ教育（史）関係文献目録」に掲載があり、公共図書館では函館市中央図書館に所蔵あり。
1975	6		「春採コタンの土地・教育問題」	『北海道史研究』第7号			
1975	11	1	「「鬼の研究」（馬場あき子著）と源氏物語」	『読書人』第24巻第3号	市立釧路図書館	9～10	
1980	3	1	「「源氏の会」十年の歩み」	『読書人』第27巻第1号	市立釧路図書館	12～15	

1983	2		『永久保日誌による私立春採尋常小学校の実情』				釧路市立中央図書館所蔵、電子複写。研究会発表資料の体裁。本文の冒頭に「五十八年二月史研例会」とあり、このときの釧路史学研究会の例会での発表資料と考えられる。
1987	5		「私立春採尋常小学校の軌跡」	『北海道史研究』第39号			
1989	9	10	「釧路英和女学校」	『歴史研究通信』第1号	日本聖公会歴史研究会		『歴史研究』第2号（日本聖公会歴史研究会、1990年5月）掲載の「「歴史研究通信」について」による。
1991	4	30	『永久保秀二郎の研究』		釧路市	246	
1993	10	1	「釧路英和女学校とルーシー・ペイン」	『北の青嵐』第10号	北海道史研究協議会	(4)	ページ番号記載なし。ここでは表紙から数えたページ数によった。
1993	11	1	「釧路英和女学校とミス・ルーシー・ペイン」	『まちなみ』No.103	市立釧路図書館	265～268	本文の後に「【追記】もう一人のペイン」あり。ページは通巻で付けられている。
1994	4	30	「永久保秀二郎『アイヌ語雑録』の植物」	『久摺　第3集』	釧路生活文化伝承保存研究会	6～35	
1994	4	30	「丹波節郎先生をお偲びして」	『久摺　第3集』	釧路生活文化伝承保存研究会	249	「故　丹波節郎会長　追悼特集」の一つ。
1995	5	19	「永久保秀二郎『アイヌ語雑録』の動物」	『久摺　第4集』	釧路生活文化伝承保存研究会	33～72	
1995	10	1	「「カイクマ」の背景を地主エカシの証言で把握」	『創立10年記念誌　100講への道のり』	釧路アイヌ文化懇話会	37	「アイヌ語雑録」に収録された「カイクマ」の背景が把握でき……」とあり。
1996	6	1	「永久保秀二郎『アイヌ語雑録』の人体―人体及び人体関連の語彙検討―」	『久摺　第5集』	釧路生活文化伝承保存研究会	58～104	
1997	5	20	「永久保秀二郎『アイヌ語雑録』の人間関係及び人物の語彙検討―」	『久摺　第6集』	釧路生活文化伝承保存研究会	48～78	
1998	7	1	「1922（大正11）年　吉良平治郎の殉職と永久保秀二郎の「風雪行」」	『北の青嵐』第66号	北海道史研究協議会	6～8	
1998	11	20	「永久保秀二郎「アイヌ語雑録」の意識関係及び行動の語彙検討」	『久摺　第7集』	釧路アイヌ文化懇話会	75～107	
1998	11	20	「史実と時代の要請を探る　―吉良平治郎の遭難から―」	『久摺　第7集』	釧路アイヌ文化懇話会	268～295	
2000	2	25	「永久保秀二郎『アイヌ語雑録』の衣食住及び道具の語彙検討」	『久摺　第8集』	釧路アイヌ文化懇話会	55～82	
2001			「芥川清五郎伝道師とパンキ・ペテロスをめぐって」	『歴史研究』第11号	日本聖公会歴史研究会		
2001	11	30	「永久保秀二郎『アイヌ語雑録』から　―地文・地名の語彙検討―」	『久摺　第9集』	釧路アイヌ文化懇話会	44～88	
2003	08	15	19世紀末～20世紀初頭ミス・ブライアントの平取におけるアイヌ民族への伝道（1）－CMS年次書簡を通して－	『女性史研究ほっかいどう』創刊号	札幌女性史研究会	55～73	
2003	12	20	「永久保秀二郎『アイヌ語雑録』の天文・自然現象などの語彙検討」	『久摺　第10集』	釧路アイヌ文化懇話会	126～156	
2004	7	1	〔[北の通信]欄に短い通信文掲載〕	『北の青嵐』第138号	北海道史研究協議会	5	
2005	6	30	「金成太郎とパンキ・ペテロス（盤木良武太）」	『歴史研究』第14号	日本聖公会歴史研究会	22～30	

2005	8	7	「永久保秀二郎『アイヌ語雑録』の語彙検討―社会・伝達・信仰・儀式・芸能などの語彙及び会話―」	『久摺　第11集』	釧路アイヌ文化懇話会	94～116	
2005	08	15	「一九四五・八・一五　14歳の私　－私の受けた戦中・戦後の教育から－」	『女性史研究ほっかいどう』第2号	札幌女性史研究会	4～41	
2005	08	15	「ミス・ブライアントの平取におけるアイヌ民族への伝道（２）一九一一年―一九二二年－CMS史料を通して－」	『女性史研究ほっかいどう』第2号	札幌女性史研究会	160～174	
2006	4		「エディンバラとバーミンガム大学図書館へ―イザベラ・バードゆかりの地とルーシー・ペインの史料を求めて―」	『歴史研究』第15号	日本聖公会歴史研究会	30～39	
2008	9	1	「永久保秀二郎集録「アイヌ語雑録」の語彙検討　―短文・助詞など、拾遺の語及び伝承類―」	『久摺』第12集	釧路アイヌ文化懇話会	25～74	
2008	10	4	「19世紀末～20世紀初頭ミス・ルーシー・ペインの北インドと北海道における宣教の軌跡」	『女性史研究ほっかいどう』第3号	札幌女性史研究会	63～95	
2009	8	14	「中学生に伝える／自らの戦争体験」	『北海道新聞』2009年8月14日	北海道新聞社	6	「読者の声」欄。
2009	11	15	「児童に伝わった／自らの戦争体験」	『北海道新聞』2009年11月15日	北海道新聞社		「読者の声」欄。
2010	8	25	「知里ナミの足跡を辿る　―元バイブルウーマン金成サロメ　知里姉弟の母として―」	『女性史研究ほっかいどう』第4号	札幌女性史研究会	4～18	
2011	2		「ミス・ブライアントの平取における教育活動をめぐって　―教育活動の思わぬ波紋―」	『歴史研究』第20号	日本聖公会歴史研究会	27～35	
2014	12	24	『永久保秀二郎の『アイヌ語雑録』をひもとく』		寿郎社	323	
2015	8	10	「社会に目向ける／高校生の姿新鮮」	『北海道新聞』2015年3月23日	北海道新聞社		「読者の声」欄。
2015	9	17	「函館靖和女学校の軌跡　―1889（明治22）年－1907（明治40）年―」	『女性史研究ほっかいどう』第5号	札幌女性史研究会	42～61	
2015	9	17	「『永久保秀二郎の研究』釧路叢書第28巻／釧路市　1991年／中村一枝著」	『女性史研究ほっかいどう』第5号	札幌女性史研究会	196	「本棚からレビュー（会員が書いた本の紹介）」の一部
2015	9	17	「『永久保秀二郎の「アイヌ語雑録」をひもとく』／寿郎社刊　2014年／中村一枝編注」	『女性史研究ほっかいどう』第5号	札幌女性史研究会	197	「本棚からレビュー（会員が書いた本の紹介）」の一部
2016	11	25	「桶作高子先生」	『久摺　第14集』	釧路アイヌ文化懇話会	165～166	「故　桶作高子先生追悼文」として寄稿された6編の一つ。
2019	3	31	「「蝦夷語集」の日本語と『節用集』との連携性を探る」	『国立公文書館内閣文庫所蔵『蝦夷語集』索引　アイヌ語－日本語編　北海道大学アイヌ・先住民研究センター古文書プロジェクト報告6』	北海道大学アイヌ・先住民研究センター	x～xii	本書「凡例」の中で本稿について言及あり。
2021	9	30	「「蝦夷語集」の日本語と「節用集」との連携性を探る」	『北海道・東北史研究』通巻第12号	北海道・東北史研究会	82～106	遺稿。本稿末尾「編集部付記」に掲載に至る経緯等について記述あり。

（2）口頭発表・講演目録

［凡例］

・「発表年月日」：当該発表の当日配布資料やプログラムの記述にしたがった。直接確認できなかった場合は「備考」欄に典拠を示した。

・「開催地」：当該発表が行われた会場の所在する市町村名を記載した。

［注］

・札幌女性史研究会での発表などについて、林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧（1987－2019）」（2020年1月の同研究会例会の「故・中村一枝さんを偲ぶ会」における配布資料。本資料は西田秀子氏より教示と提供を受けた）に多くを教わった。

発表年月日			表題	発表学会・行事名	主催	開催地	備考
（年）	（月）	（日）					
1983	2		「永久保日誌による私立春採尋常小学校の実情　―明治二十四年～明治三十九年―	釧路史学研究会例会	釧路史学研究会	釧路市	釧路史中央図書館所蔵の例会発表資料と考えられる文献（本書誌２「中村一枝氏著作目録」参照）による。
1987	6	27	「私立春採尋常小学校の教育」	北海道歴史研究者協議会例会	北海道歴史研究者協議会	札幌市	『道歴研会報』第48号（1987年10月10日）に「報告要旨」掲載。
1988	1		「私立春採尋常小学校の軌跡」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1988	2	27	「私立春採尋常小学校の特質　―1890年代の私立アイヌ学校―」	北海道教育学会第32回研究発表大会	北海道教育学会	釧路市	
1989	1		「教育勅語と児童への影響」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1990	1		「ルーシー・ペインと釧路英和女学校」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1990	12		「ルーシー・ペインのC.M.S.報告から　―アイヌ学校への伝道を中心に―」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1991	3		「釧路叢書『永久保秀二郎の研究』の進捗状況」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1991	7		「合評会　中村一枝『釧路叢書　永久保秀二郎の研究』」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。著者として参加。
1992	3		「永久保秀二郎集録　―アイヌ語雑録について」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1992	9		「〔参加報告〕第5回全国女性史研究会交流のつどい」（分科会報告「戦争と女性」）	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1992	10		「〔参加報告〕第5回全国女性史研究会交流のつどい」（「沖縄の小・中・高の教科書からみる沖縄戦と基地」）	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。

1993	3	27	「釧路アイヌ教育史の一断面―春採アイヌ学校をみる―」	国際先住民年記念シンポジウム「アイヌ民族と学校教育同化教育から民族教育へ」	北海道ウタリ教会釧路支部	釧路市	
1993	6	27	「アイヌ語方言語彙対照―永久保秀二郎「アイヌ語雑録」を中心に―」	釧路アイヌ文化懇話会例会（第75講）	釧路アイヌ文化懇話会例会	釧路市	『創立10年記念誌　100講への道のり』掲載「例会のあゆみ」による。
1993	8		「『日本女性の歴史―女のはたらき』「15年戦争のなかで」」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	書評報告。林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1994	7		「アイヌ語植物の生活上の有用性―永久保秀二郎『アイヌ語雑録』の分析を通して」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	『久摺　第4集』掲載論考についての報告。林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1994	8		〔参加報告〕「余市シンポジウム―北からの日本史」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	北海道・東北史研究会シンポジウム報告。林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1994	9	4	「永久保秀二郎「アイヌ語雑録」の動物について」	釧路アイヌ文化懇話会例会（第89講）	釧路アイヌ文化懇話会例会	釧路市	『創立10年記念誌　100講への道のり』掲載「例会のあゆみ」による。
1995	6		「永久保秀二郎「アイヌ語雑録」の動物」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	『久摺　第5集』掲載論考についての報告。林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1995	8	27	「永久保秀二郎「アイヌ語雑録」人間篇①人体」	釧路アイヌ文化懇話会例会（第101講）	釧路アイヌ文化懇話会例会	釧路市	『創立10年記念誌　100講への道のり』掲載「例会のあゆみ」による。
1996	7		「永久保秀二郎「アイヌ語雑録」の人体検討から」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	『久摺　第6集』掲載論考についての報告。林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1997	5		「永久保秀二郎「アイヌ語雑録」の人間関係及び人物の語彙検討」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	『久摺　第7集』掲載論考についての報告。林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1998	3		「史実と時代の要請を探る―文部省『高等小学校　修身　巻一』「責任」採択に至る過程」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1998	10		〔参加報告〕「第7回全国女性史研究交流のつどい in かながわ」（第5分科会　労働「女の働き方をめぐって」）	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1999	3		「「アイヌ民族とキリスト教」の史料紹介」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
1999	7		「アイヌ民族とキリスト教　―ミス・ブライアントの平取における伝道活動」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2000	7		「ミス・ブライアントの報告からわかったこと」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。

2003	4		「ミス・ブライアントの平取における伝道実態」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2004	5		「金成太郎とパンキ・ペテロスの検証　―出典付き年表を作成して」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2005	2		「私の受けた戦中・戦後の教育から」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2005	5		「ミス・ブライアントの平取におけるアイヌ民族への伝道」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2005	9		〔参加報告〕「第10回全国女性史研究交流のつどい in 奈良」（スタディツアー　「水平社運動の跡を訪ねて」）	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2005	11		「調査報告「ミス・ルーシー・」ペインとイザベラ・バードを訪ねてスコットランドへ」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2006	7		「エディンバラ、バーミンガムへの史料探索の旅」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2007	1		「ミス・ルーシー・ペインの北インドにおける宣教活動と中断の謎を探る」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2007	2		「ミス・ルーシー・ペインの北インドにおける宣教活動と中断の謎を探る」（前回の続き）	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2007	6		「ミス・ルーシー・ペインの釧路における宣教活動と帰国の経緯をたどる」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2008	4		「ミス・ルーシー・ペインの北インドと北海道での宣教活動と帰国の経緯をたどる」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2008	5		「ミス・ルーシー・ペインの釧路での宣教活動と帰国の経緯をたどる」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2009	5		「知里真志保を育んだ母ナミの働き」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2009	9		「〔参加報告〕日本オーラルヒストリー学会大会（札幌）」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2009	10		「〈北野小学校四年生のために〉白糠軍馬補充部に援農と空襲」	札幌市立北野小学校	札幌市立北野小学校	札幌市	同校4年生の総合学習。自身の戦時下の体験を語った。

2009	11		「北野小学校4年の総合学習に10代の戦争体験を語る」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2010	3		「ミス・ブライアントの平取での活動」	平取町振内自治会	平取町振内自治会	平取町	
2010	4		「平取町振内で講演「ミス・ブライアントの平取においての活動」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2010	5		「知里ナミ」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2010	10		「〔参加報告〕「知里幸恵　銀のしずく記念館」開館記念の佐々木講演と「神謡集序」合唱など」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2011	2		「時代を生きた女たち　母・知里ナミと娘・幸恵の足跡を辿る」	〔公開講座〕「時代を生きた女たち　母・知里ナミと娘・幸恵の足跡を辿る」	札幌女性史研究会（主催）、札幌市男女共同参画センター（共催）	札幌市	ゲスト：横山むつみ氏（演題「伯母・知里幸恵と「記念館」を語る」）
2011	4		「〔参加報告〕市男女共同参画センター登録団体交流会」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2011	4	16	「アイヌ民族のバイブルウーマン―金成マツとナミ姉妹」		知里幸恵　銀のしずく記念館	登別市	
2011	7		「函館靖和女学校の概要」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2011	10		「〔参加報告〕山口里子講演―フェミニスト神学でみるマグダラのマリア」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2012	8	5	「函館アイヌ学校と春採アイヌ学校との関係」	釧路アイヌ文化懇話会例会（第292講）	釧路アイヌ文化懇話会	釧路市	『久摺　第14集』掲載「例会の歩み（第271講～）」による。
2013	8	4	「永久保秀二郎のアイヌ語雑録を通して」	釧路アイヌ文化懇話会例会（第303講）	釧路アイヌ文化懇話会	釧路市	『久摺　第14集』掲載「例会の歩み（第271講～）」による。
2014	8	3	「永久保秀二郎のアイヌ語雑録の検証を終えて」	釧路アイヌ文化懇話会例会（第314講）	釧路アイヌ文化懇話会	釧路市	『久摺　第14集』掲載「例会の歩み（第271講～）」による。
2014	9	1	「アイヌ民族のバイブルウーマン―金成マツとナミ姉妹」	フェミニスト神学フォーラム in 北海道	フェミニスト神学研究会・さっぽろ		『フェミニスト神学フォーラム in 北海道』プログラムによる。
2015	1		「新著『永久保秀二郎の〈アイヌ語雑録〉をひもとく』を語る」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	

2015	6		「函館靖和女学校の軌跡」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2015	8	2	「永久保秀二郎アイヌ語雑録を紐解く」	釧路アイヌ文化懇話会例会（第324講）	釧路アイヌ文化懇話会	釧路市	『久摺　第14集』掲載「例会の歩み（第271講～）」による。
2015	11	21	〔永久保秀二郎「アイヌ語雑録」について報告〕	釧路が誇る文化遺産デジタル化公開報告会＆記念国際シンポジウム	阿寒湖温泉アイヌ文化推進実行委員会(共催:市立釧路図書館)	釧路市	
2016	1		〔参加報告〕「釧路市立図書館招聘『デジタル化公開報告会記念シンポ』（永久保資料）」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2016	6		「釧路市立図書館とのインターネット公開に関する係争について」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2017	3		「道新2017/1/17「道アイヌ協会70周年」に因んで」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2017	7		「『アイヌ語雑録』の会話・伝承より」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2018	7		〔参加報告：滝川市美術自然史館講演会「郷土資料は人々をつなぐ～高畑利宜文書を中心として～」〕	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	同年6月23日に滝川市美術自然史館が特別展「高畑利宜のイシカリ探検とアイヌ美術の世界」の関連事業として開催した講演会の参加報告。林恒子氏作成「中村一枝さんの札幌女性史研究会における活動一覧」による。
2018	9		〔学習会報告：『ジェンダーから見た日本史』〕	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	紫式部と源氏物語、清少納言と枕草子を取り上げる。
2019	10	17	「戦争末期の決戦教育と戦後占領下の民主教育の体験」		北海道釧路江南高等学校	釧路市	
2019	10	18	「「永久保秀二郎日誌」から蘇る釧路のアイヌ文化」	釧路地方の地名を考える会		釧路市	
2019	10	20	「上原熊次郎『蝦夷語集』の索引づくり」	釧路アイヌ文化懇話会		釧路市	
2019	11		「戦争末期の決戦教育と戦後占領下の民主教育の体験」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	釧路江南高等学校における講演の再報告。
2019	11		「上原熊次郎『蝦夷語集』の索引づくり」	札幌女性史研究会	札幌女性史研究会	札幌市	

（3）主要関係文献目録

［凡例］

・「発行年月日」：当該文献の記述にしたがった。

・「表題」：単著は『　』で、論文等は「　」で括って示した。

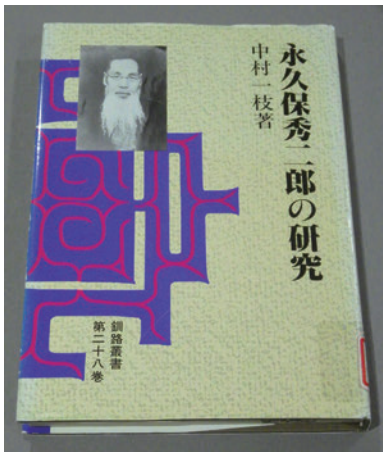
・「ページ」：単著の場合は本文の総ページ数、論文等の場合は掲載ページを示す。

年	月	日	編著者	文献の表題	所収・巻号	発行者	掲載（関係）ページ	関係事項
1978	6	10	西潟弘子	『釧路高女物語　―花の心ぞ　けなげなる―』		釧路新聞社	232～246	「二十六・二十七・女子高二回生」の項（232～246ページ）に「源氏の会の中村さん」の見出しで関連記述あり。この他にも中村一枝氏の談話を紹介した部分あり。
2005	11	1	吉良平治郎研究会（編）	『アイヌ逓送人　吉良平治郎　研究資料集成』		釧路アイヌ文化懇話会		同書「資料編」（61～201ページ）では「この資料編は、釧路アイヌ文化懇話会会誌「久摺」第七集所収の中村一枝著「史実と時代の要請を探る～吉良平治郎の遭難から～」の末尾に添えられた関連資料を基にして出来上がっている」とあり。
2019	12	28	椎名宏智	「釧路出身　中村一枝さん死去／永久保秀二郎を研究」	『北海道新聞』2019年12月28日朝刊	北海道新聞社	道東（釧路）面	追悼記事（本稿に参考資料として掲載）。

（4）主要著書と雑誌『かぜ』目次

［凡例］
・原則として目次ページの記載によった。ただし、明らかな誤記・誤植と思われる箇所のみ修正した。
・中村一枝氏の著書における中村氏以外の著者名による箇所について、（　）内に著者名を記した。
・雑誌『かぜ』は、釧路文学館（釧路市中央図書館内）で所蔵を確認できた2、3、4、7号のみを紹介した。

永久保秀二郎の研究



序　―永久保先生に関する実証的研究―　（釧路市長　鰐淵俊之）
序章　春湖翁頌徳碑と永久保秀二郎日誌
　一　春湖翁頌徳碑と共同納骨堂
　　（一）　春湖翁頌徳碑
　　（二）　共同納骨堂
　二　「永久保日誌」
　　（一）　永久保日誌保存の経緯
　　（二）　「永久保日誌」とその他の集録類
　三　研究史及び本書の主眼
　　（一）　永久保に関する出版物
　　（二）　本書の主眼

第一章　永久保秀二郎の半生　―来釧までのこと―
　一　渡道以前
　　刈田郡宮村の生家
　　（一）　学問への道
　　①　根本塾　　②　佐久間塾
　　（二）　郷里の家塾
　　（三）　結婚と離郷
　二　函館時代
　　（一）　上湯川学校の教師
　　（二）　瀧迺学校の教師
　　（三）　キリスト教との遭遇
　　（四）　春採赴任を決意
　　（五）　函館から釧路上陸
　　①　釧路上陸の一家　②　当時の釧路

第二章　春採集落の成立と聖公会の伝道
　一　春採への回廊
　　（一）　蝦夷地の頃
　　（二）　開拓政策の影響
　　（三）　雪裡への強制移住
　二　聖公会の北海道初期伝道
　　（一）　Ｃ・Ｍ・Ｓの北海道宣教の端緒
　　（二）　小川　淳
　　（三）　デニングのアイヌ伝道
　　（四）　山田致人
　三　釧路聖公会の初期の活動
　　（一）　草創期の状況
　　（二）　春採への伝道
　　（三）　釧路英和女学校
　　（四）　巡回伝統の足跡
　　①　釧路地方の伝道地　　②　聖書の指導と反応　　③　巡回伝道の一例

第三章　春採アイヌ学校の日々
　一　私立学校前期（明治二四―同三二年七月）
　　―理想に燃えた春採アイヌ学校―
　　（一）　春採アイヌ学校開校の経緯
　　（二）　随時の入校者
　　（三）　安田炭鉱の子弟も入校
　　（四）　出席は漁期次第
　　（五）　「よみ、かき、そろばん」と修身
　　（六）　聖書教育
　　（七）　天然痘休校
　　（八）　学校風呂
　　（九）　学校経営多難
　　（十）　私立春採尋常小学校認可
　　（十一）　釧路地方の各アイヌ学校の状況
　二　私立学後期（明治三二年八月―同三九年二月）
　　―苦悩の私立春採尋常小学校―
　　（一）　私立学校令と聖公会の対応
　　（二）　「旧土人保護法」とみせかけ補助金
　　（三）　岐路に立つアイヌ学校
　　（四）　ルーシー・ペインの帰国
　　（五）　「委託教育」の受け入れ
　　（六）　Ｃ・Ｍ・Ｓの経営撤退と最終卒業式
　三　公・官立時代（明治三九年四月以降）
　　―「旧土人小学校」へ組入れ―

（一）　町立特別教育所
（二）　新校地選定と旧校舎解体
（三）　官立春採尋常小学校へ
（四）　視学官の巡視
（五）　皇国民化教育
（六）　教育功績表彰
（七）　「旧土人児童教育規定〔ママ〕」の成立
（八）　愛惜の教え子たち
（九）　秀二郎の退職

第四章　秀二郎と春採
一　春採の人々の厚情
二　アイヌ民族の伝統への関心
（一）　月食
（二）　熊送り
（三）　「アイヌ語雑録」
三　病苦の人々へ救援
四　「旧土人保護法」給与地
五　土地損失の実態
（一）　海産干場奪取
（二）　宅地喪失
（三）　鉄道部買上一件
（四）　安田炭鉱借区承認
（五）　昆布無料鑑札
（六）　戸数割税と差押え
六　共同活動へのとりくみ
（一）　厚岸アイヌと新潟へ
（二）　博覧会への参加
①　セントルイス博覧会に出場　②　東京勧業博覧会へ
（三）　百万坪牧場計画
（四）　青年同志会

終章　秀二郎の終焉と横顔
一　人々との別れと終焉
二　永久保秀二郎の横顔
三　残された今後の課題

永久保秀二郎の年譜

あとがき
編集後記（事務局）

永久保秀二郎の『アイヌ語雑録』をひもとく

はじめに
寄贈文書類目録
『アイヌ語雑録』解題
　1．永久保秀二郎について
　2．『アイヌ語雑録』の体裁
　3．『アイヌ語雑録』の情報提供者四名の略歴
　4．『アイヌ語雑録』の着手時期及び進行過程
凡例
出典及び参考文献

語彙の部
　アイヌ語未記載の語

伝承の部
　1．アイヌの教訓
　2．カムイノミ　シノツサア
　3．タプカラ
　4．アイヌの伽噺
　5．明治天皇崩御
　6．カムイ　ラン
　7．ウララ　シュイ
　8．ホイヤホイヤ
　9．歌謡以外

アイヌ語方言の地域性
　1．日高東半部、北海道東部・北部のアイヌ語方言に包含すると思われる語
　2．日高西半部、胆振、北海道中・西南部のアイヌ語方言に包含すると思われる語

参照文献の影響
　1．近世の文献類と近似性が高い語
　2．バチラー辞典の語と近似性が高い語

日本語－アイヌ語索引

『永久保秀二郎の『アイヌ語雑録』をひもとく』によせて（奥田統己）

おわりに

雑誌『かぜ』

［凡例］
・号数については、各号の表紙に「２」「３」等と表示があるのみなので、ここでは〔第2号〕のように記載した。
・各号について、号数、発行年月日・発行者等の情報、本文の目次、その他の情報の順に記載している。

〔第2号〕
1961（昭和36）年7月10日印刷
1961（昭和36）年7月15日発行
編集代表　中村一枝

青空は三角形に　前田鋭子
新しいえのぐ　前田鋭子
雪どけ　中村一枝
おつかい　武隈正子

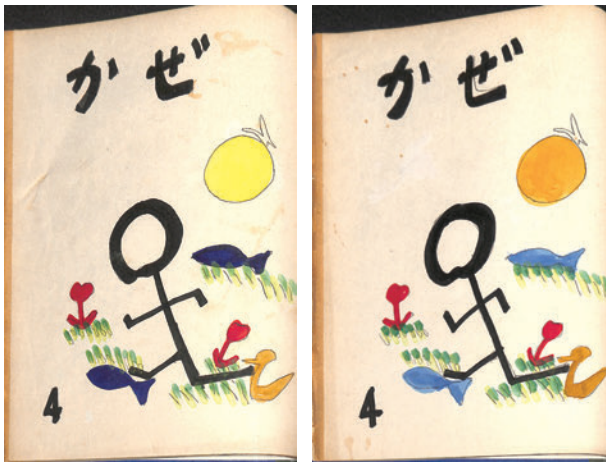
※上記のほか、巻頭に千葉省三の詩を掲載、巻末に編集後記的な文章あり（著者名記載は無いが、編集代表である中村氏による可能性が高いか）。

〔第3号〕
（奥付に相当する記載無し。「あとがき」には「一九六一・十・五」とあり。）

みんないっしょに歩いていこう　武隈正子
まひるまの夢　前田鋭子
ひがんばな　中村一枝
あとがき　K

〔第4号〕
（奥付に相当する記載無し。「あとがき」には「一九六二・二・二五　」とあり。）

ピコちゃん　中村一枝
おくりもの　前田鋭子
北の国から　武隈正子
（本文の前に、前書き的な文章あり）
児童文学作品について　武隈正子
力　中村一枝
石森延男著「親子牛」を読んで
あとがき（著者名記載なし、文字は中村一枝氏の文字と思われる。）



釧路文学館にある『かぜ』第４号

同館には第4号が2冊所蔵されているが、表紙の誌名の文字や絵柄の彩色が微妙に異なる。編集・発行に当たったメンバーが一冊ずつ文字をなぞり、彩色していた様子が推測される。

〔第7号〕
発行者　堀薬局内　中村一枝

人形のふとん　武隈正子
幼き日の思い出（二）　胡弓　蛯原慶子
編集つれづれ　蛯原

参考

『北海道新聞』2019年12月28日道東（釧路）面掲載記事
「釧路出身中村一枝さん死去／永久保秀二郎を研究」（署名記者：椎名宏智氏）

[redacted]

注：この記事は北海道新聞社より本稿への掲載に限り許可をいただき転載したものである。（申込番号：25978）

MATERIALS

A Ctalog of the Works of NAKAMURA Kazue (1931-2019)

OGAWA Masahito and NISHIDA Hideko

NAKAMURA Kazue left behind many accomplishments in her research on the history of Ainu education (especially the Elementary School for Ainu Children in Kushiro and the footsteps of its teacher NAGAKUBO Shuujirou, as well as those of women who engaged in Ainu education as Christian missionaries), research on the history of women in Hokkaido, and activities to convey her own wartime experiences for the cause of peace. Throughout her life, as a housewife not in office, she engaged in surveys and research, and continued to publish the results of these studies in lectures and writings.

This paper includes a list of her writings, a list of her oral presentations and lectures, an introduction to her major publications, and contributions by people connected to her.

OGAWA Masahito : Director Ainu Culture Center Hokkaido Museum
NISHIDA Hideko : Former representative Sapporo Joseishi Kenkyukai (The Society for Research on Women's History in Sapporo and Hokkaido)